

記者発表資料（資料配布）				
発表日	担当課名	電話	発表者名（担当者）	その他配布先
9月19日（火）	病院局経営課	078-362-3301 内線3464	経営課長 鳥田 信次 （経営班長 鈴木 健介）	阪神南、東播磨、中播磨、西播磨、丹波、淡路各県民局（県民センター）

## 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について

### 1 経営状況（13病院）

- (1) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた経営となったが、診療報酬増額やコロナ患者受入れに係る病床確保料等により、減収分は概ね補填された。一方、はりま姫路総合医療センター開院に伴う患者調整等で一時的に収支が悪化し、経常損益は30億円の赤字となった。また、純損益は、旧姫路循環器病センターに係る特別償却や旧柏原病院建物撤去費用を特別損失として計上したことにより、85億円の赤字となった。
- (2) 経常収益は、はりま姫路総合医療センター開院に伴う稼動病床増や、コロナ対応と通常医療との両立促進による患者数の増で入院収益が増加したほか、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う受診控えの緩和等により外来収益が増加し、前年度から119億円増の1,611億円となった。また、特別利益を含む収益全体では、前年度から119億円増加し、1,634億円となった。
- (3) 経常費用は、はりま姫路総合医療センター開院による給与費や経費の増、医業収益の増加に伴う材料費の増等により、前年度から177億円増加し1,641億円となった。また、特別損失を含む費用全体では、前年度から236億円増加し、1,720億円となった。

#### 【決算状況（13病院）】

（単位：百万円）

区分	令和3年度	令和4年度	前年度比較		
			増減	割合（%）	
経常収益	入院収益	72,464	84,598	12,134	116.7
	外来収益	35,262	38,198	2,936	108.3
	その他医業収益	2,361	2,567	206	108.7
	医業収益計	110,086	125,363	15,277	113.9
	一般会計繰入金	15,861	16,392	531	103.3
	その他収益	23,244	19,377	△ 3,867	83.4
	合計①	149,191	161,132	11,941	108.0
経常費用	給与費	71,041	79,265	8,224	111.6
	材料費	38,780	44,012	5,232	113.5
	経費	22,535	27,130	4,595	120.4
	その他医業費用	11,359	11,404	45	100.4
	医業費用計	143,715	161,811	18,096	112.6
	その他費用	2,628	2,296	△ 332	87.4
	合計②	146,343	164,107	17,764	112.1
経常損益③(①-②)	2,848	△ 2,976	△ 5,824	—	
特別利益④	2,348	2,307	△ 41	98.3	
特別損失⑤	2,009	7,871	5,862	391.8	
当期純損益⑥(③+④-⑤)	3,186	△ 8,540	△ 11,726	—	

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

（単位：百万円）

区分	尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線		10病院計	指定管理			計	
										たつの	神戸陽子		災害	リハ中	リハ西		
R3 決算	経常損益	2,913	△ 20	1,828	△ 245	△ 267	727	△ 245	△ 136	△ 491	△ 777	△ 439	2,847	0 (85)	1 (57)	0 (△7)	2,848 (135)
	純損益	3,014	202	1,991	△ 19	△ 1,314	1,054	△ 141	△ 93	△ 289	△ 796	△ 422	3,186	0 (85)	0 (57)	0 (△7)	3,186 (135)
R4 決算	経常損益	1,149	△ 144	1,356	△ 4,163	100	90	170	△ 49	△ 35	△ 955	△ 494	△ 2,976	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△ 2,976 (35)
	純損益	1,159	△ 131	1,370	△ 7,477	△ 2,190	87	175	△ 55	△ 30	△ 955	△ 494	△ 8,540	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△ 8,540 (35)

※1 ( ) 書きは指定管理病院の決算を記載

※2 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

【業務量(13病院)】

区 分		単 位	令和3年度	令和4年度	前年度比較
入院	病床数(年度末)	床	3,952	4,290	338
	病床利用率	%	69.1	74.8	5.7
	延患者数	人	996,330	1,164,615	168,285
	1日当たり患者数	人/日	2,730	3,190	460
	平均在院日数	日	12.7	12.8	0.1
	入院単価	円	78,551	77,967	△ 584
外来	延患者数	人	1,548,688	1,710,433	161,745
	1日当たり患者数	人/日	6,400	7,037	637
	外来単価	円	23,668	23,154	△ 514

2 資本的収支

(1) 決算状況

(単位：百万円)

区 分		令和3年度	令和4年度	前年増減	主な増減理由
収入	企業債	25,329	12,343	△ 12,986	企業債を財源とする建設改良費の減に伴う減
	負担金	7,104	7,240	136	企業債償還額の増等に伴う増
	その他収入	1,971	564	△ 1,407	補助金の減△1,321(1,764→443)
	合 計	34,405	20,148	△ 14,257	
支出	建設改良費	29,092	13,313	△ 15,779	はりま姫路総合医療センター整備事業△17,648(24,077→6,429) 西宮総合医療センター(仮称)整備事業+603(33→636) がんセンター建替整備事業△109(145→36) 医療機器整備事業+1,318(3,776→5,094)
	企業債償還金	9,685	10,166	481	実績増
	その他支出	171	136	△ 35	看護師修学資金貸付金等の実績減
	合 計	38,949	23,616	△ 15,333	
差 引	△ 4,544	△ 3,468	1,076	内部留保資金で補てん	

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

(2) 主な整備事業

- ア はりま姫路総合医療センター整備事業 総事業費 423億円(うちR4年度64億円)
- イ 西宮総合医療センター(仮称)整備事業 総事業費 560億円(うちR4年度6億円)
- ウ がんセンター建替整備事業 総事業費 457億円(うちR4年度0.4億円)

### 3 累積欠損金、内部留保資金等

令和4年度末の累積欠損金は、令和4年度の当期純損益（税抜き）が86億円の赤字となったことから402億円となり、112億円の債務超過となった。

また、内部留保資金の残高は、3億円減少し、令和4年度末で103億円となった。

（単位：百万円）

区 分	令和3年度	令和4年度
当期純損益	3,180	△ 8,552
累積欠損金	△ 31,602	△ 40,154
資本合計	△ 2,943	△ 11,216
内部留保資金残高	10,597	10,293

※ 金額は損益計算書ベース（税抜き）で作成

（参考：令和4年度決算の特色等）

#### 1 病院事業全体の経常損益・純損益は赤字

はりま姫路総合医療センターの開院に伴う患者調整等により、一時的に収支が悪化し、経常損益は30億円の赤字。

旧姫路循環器病センターの特別償却や旧柏原病院建物撤去費用等を特別損失に計上したことにより、純損益は85億円の赤字。

（単位：百万円）

区 分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
経常損益	△2,087	104	△382	△3,126	740	2,848	△2,976
純 損 益	△5,599	12	21	△3,988	△5,542	3,186	△8,540

#### 2 令和5年度の取組

令和5年度は、はりま姫路総合医療センターのフルオープン（R4.5開院時：640床→R5.4：736床）により収支改善を図るとともに、民間コンサルを活用した経営再生本部など、各病院と病院局が一体となった経営改善を推進し、持続可能な経営の確保に努める。

### 【病院局が取り組むSDGsの目標】



記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	尼崎総合医療センター 経営企画部	代表 06-6480-7000 内線 4049	管理局長 齊藤 芳樹 (経営企画部長 西尾 卓也)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立尼崎総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症患者への対応のため一部病棟を閉鎖したものの、手術や化学療法の件数増加により医業収益が増加した一方、新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業の病床確保料が減少したこと等により、経常収益は前年度から 973 百万円減少し、38,769 百万円となった。
- (2) 経常費用は、医業収益の増加に連動した材料費の増加及び光熱水費等の経費が増加したこと等により、前年度から 791 百万円増加し、37,620 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から 1,764 百万円悪化し、1,149 百万円の黒字となった。

区 分		単 位	令和3年度	令和4年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	730	730	0	100.0	
	入院	延患者数	人	208,726	223,390	14,664	107.0
		1日当たり患者数	人	572	612	40	107.0
		新規患者数	人	19,916	21,174	1,258	106.3
		平均在院日数	日	9.5	9.5	0.0	100.0
		診療単価	円	97,032	97,289	257	100.3
	外来	延患者数	人	446,409	458,221	11,812	102.6
		1日当たり患者数	人	1,845	1,886	41	102.2
		新規患者数	人	30,642	33,783	3,141	110.3
		診療単価	円	20,644	20,866	222	101.1
経常収益	入院収益	百万円	20,253	21,733	1,480	107.3	
	外来収益	百万円	9,216	9,561	345	103.7	
	その他医業収益	百万円	584	595	11	101.9	
	医業収益計	百万円	30,053	31,890	1,837	106.1	
	一般会計繰入金	百万円	2,808	2,906	98	103.5	
	その他収益	百万円	6,882	3,973	△ 2,909	57.7	
	合計①	百万円	39,742	38,769	△ 973	97.6	
経常費用	給与費	百万円	18,455	18,343	△ 112	99.4	
	材料費	百万円	10,857	11,832	975	109.0	
	経費	百万円	4,975	5,111	136	102.7	
	その他医業費用	百万円	2,180	1,986	△ 194	91.1	
	医業費用計	百万円	36,467	37,271	804	102.2	
	その他費用	百万円	362	349	△ 13	96.4	
	合計②	百万円	36,829	37,620	791	102.1	
経常損益③(①-②)	百万円	2,913	1,149	△ 1,764	-		
特別利益④	百万円	524	20	△ 504	3.8		
特別損失⑤	百万円	424	9	△ 415	2.1		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	3,014	1,159	△ 1,855	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

#### ①医療の効率性向上

- ・PFM-AGMCによる適正な平均在院日数の確保（R3 9.5日→R4 9.5日）
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの適正な水準の確保（R3 20.2%→R4 21.5%）
- ・クリニカルパス適用率の拡大（R3 66.4%→R4 69.4%）

#### ②集中系治療室の効率的運用

- ・患者の重症度・緊急度に適合する最適なベッドコントロール
- ・コロナ専用病床の運用を踏まえた各集中治療室の柔軟な運用

#### ③オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

#### ④診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

### (2) 施設・医療機器の整備

- ①北館の建設（令和5年2月27日患者サポートセンター開設）
- ②全身用コンピュータ断層撮影装置の更新（約220百万円、令和5年3月）
- ③手術顕微鏡の更新（約90百万円、令和5年3月）
- ④人工心肺装置の更新（約62百万円、令和5年3月）

## 3 今後の取組

### ①医療の効率性向上

- ・PFM-AGMCによる平均在院日数の短縮
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの縮減
- ・クリニカルパス適用率の拡大

### ②集中系治療室の効率的運用

- ・患者の重症度・緊急度に適合する最適なベッドコントロール

### ③オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

### ④診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

**【参 考】 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）**

## 記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	西宮病院 総務部	代表 0798-34-5151 内線 3201	管理局長 青田 浩二 (総務部長 安木 雅喜)	県政記者 クラブ

## 令和4年度 県立西宮病院の経営状況について

## 1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症に伴う入院病床の確保、受診控え等により新型コロナウイルス感染症に影響を受ける前までの回復はできなかったものの、医業収益が前年度から239百万円増加したことと、新型コロナウイルス感染症対策事業等にかかる補助金等のその他収益が増加したことにより、前年度から283百万円増加し、13,475百万円となった。
- (2) 経常費用は、医師の増員等により給与費が増加したことや、燃料費や物価の高騰の影響を受けた経費の増加等により、前年度から407百万円増加し、13,619百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度の20百万円の赤字から124百万円悪化し、144百万円の赤字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	400	400	0	100.0	
	入院	延患者数	人	105,599	108,182	2,583	102.4
		1日当たり患者数	人	289	296	7	102.4
		新規患者数	人	9,436	9,725	289	103.1
		平均在院日数	日	10.2	10.2	0.0	100.0
		診療単価	円	69,214	70,243	1,029	101.5
	外来	延患者数	人	150,486	149,571	△915	99.4
		1日当たり患者数	人	622	616	△6	99.0
		新規患者数	人	10,857	11,282	425	103.9
		診療単価	円	20,073	19,999	△74	99.6
経常収益	入院収益	百万円	7,309	7,599	290	104.0	
	外来収益	百万円	3,021	2,991	△30	99.0	
	その他医業収益	百万円	229	207	△22	90.4	
	医業収益計	百万円	10,559	10,798	239	102.3	
	一般会計繰入金	百万円	1,130	1,136	6	100.5	
	その他収益	百万円	1,503	1,541	38	102.5	
	合計①	百万円	13,192	13,475	283	102.1	
経常費用	給与費	百万円	7,530	7,867	337	104.5	
	材料費	百万円	3,174	3,248	74	102.3	
	経費	百万円	1,815	1,870	55	103.0	
	その他医業費用	百万円	605	564	△41	93.2	
	医業費用計	百万円	13,124	13,549	425	103.2	
	その他費用	百万円	89	70	△19	78.7	
	合計②	百万円	13,212	13,619	407	103.1	
経常損益③(①-②)	百万円	△20	△144	△124	—		
特別利益④	百万円	241	17	△224	7.1		
特別損失⑤	百万円	18	4	△14	22.2		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	202	△131	△333	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 急性期充実体制加算の取得 (R4. 7)
- ② 病棟薬剤業務実施加算の取得 (R4. 8)
- ③ 早期離床・リハビリテーション加算の取得 (R4. 7)

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 全身用コンピュータ断層撮影装置 (約 200 百万円) の整備 (5年3月)
- ② 手術用ナビゲーションシステム (約 51 百万円) の整備 (5年2月)
- ③ 全身麻酔装置システム (約 32 百万円) の整備 (5年3月)
- ④ 超音波診断装置 (約 20 百万円) の整備 (4年12月)

## 3 今後の取組

- ① 西宮市立中央病院との統合新病院の整備を推進
- ② 令和6年度診療報酬改定にむけての準備
- ③ クリニカルパス活用の推進
- ④ 看護補助体制充実加算の取得
- ⑤ 不整脈外来の設置

[参 考] 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について (別紙のとおり)

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	加古川医療センター 総務部	代表 079-497-7000	管理局長 橋本 盛方 (総務部長 八木 充宏)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立加古川医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症の診療体制を維持した上で、一般診療体制の確保に努めたことにより、前年度に比べ入院、外来ともに患者数は増加し、医業収益は増加したが、新型コロナウイルス感染症患者受入れに係る病床確保料等の減少により前年度から322百万円減少し、15,768百万円となった。
- (2) 経常費用は、医業収益の増加に連動した材料費の増加や光熱水費等の経費の増加により前年度から149百万円増加し、14,411百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、1,356百万円の黒字となったが、前年度からは472百万円の悪化となった。

区 分		単 位	令和3年度	令和4年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	353	353	0	100.0	
	入院	延患者数	人	67,189	79,541	12,352	118.4
		1日当たり患者数	人	184	218	34	118.5
		新規患者数	人	5,530	6,261	731	113.2
		平均在院日数	日	10.8	11.3	0.5	104.6
	外来	診療単価	円	88,501	77,856	△10,645	88.0
		延患者数	人	160,756	169,038	8,282	105.2
		1日当たり患者数	人	664	696	32	104.8
新規患者数		人	10,197	8,612	△1,585	84.5	
	診療単価	円	21,691	21,686	△5	100.0	
経常収益	入院収益	百万円	5,946	6,193	247	104.2	
	外来収益	百万円	3,487	3,666	179	105.1	
	その他医業収益	百万円	188	206	18	109.6	
	医業収益計	百万円	9,621	10,064	443	104.6	
	一般会計繰入金	百万円	1,421	1,371	△50	96.5	
	その他収益	百万円	5,049	4,333	△716	85.8	
	合計①	百万円	16,090	15,768	△322	98.0	
経常費用	給与費	百万円	7,353	7,117	△236	96.8	
	材料費	百万円	3,084	3,384	300	109.7	
	経費	百万円	2,083	2,160	77	103.7	
	その他医業費用	百万円	1,372	1,427	55	104.0	
	医業費用計	百万円	13,891	14,088	197	101.4	
	その他費用	百万円	371	323	△48	87.1	
	合計②	百万円	14,262	14,411	149	101.0	
経常損益③(①-②)	百万円	1,828	1,356	△472	-		
特別利益④	百万円	187	14	△173	7.5		
特別損失⑤	百万円	24	0	△24	0.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	1,991	1,370	△621	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。



## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 手術支援ロボット「hinotori」の本格運用開始

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 体外衝撃波結石破碎装置の更新（65 百万円）（令和 4 年 12 月）
- ② 泌尿器用レーザー手術装置の更新（28 百万円）（令和 4 年 10 月）
- ③ 光干渉断層計装置の更新（24 百万円）（令和 4 年 9 月）
- ④ 汎用超音波画像診断装置の更新（15 百万円）（令和 4 年 12 月）

## 3 今後の取組

- ① 新型コロナウイルス感染症 5 類移行後の一般診療体制の確保
  - ・ 3 次、2 次救急受入れ体制の確保
  - ・ 初診紹介患者確保に向けた地域医療連携の強化
  - ・ 県かこ県民フォーラムや地域医療連携会議開催等による情報発信の強化
- ② 神経難病の入院治療の拡大
- ③ 入院サポートセンターの拡充
- ④ 病院機能評価（令和 6 年 10 月受審予定）の受審準備

**[参 考]** 令和 4 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	はりま姫路総合医療センター 経営企画部	代表 079-289-5080 内線 77021	管理局長 加藤 英樹 (経営企画部長 坂本 康司)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立はりま姫路総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、製鉄記念広畑病院との統合再編による規模拡大に伴い大幅に伸びたものの、開院前後に診療を制限した結果、年度前半に下押しされたため、前年度比 10,312 百万円増加の 24,066 百万円となった。
- (2) 経常費用は、経常収益同様、規模拡大に伴う増大に加え、移転・開院による臨時費用がかさみ、前年度から 14,232 百万円増加し、28,230 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から 3,918 百万円悪化し、4,163 百万円の赤字となった。
- (4) なお、旧姫路循環器病センターの除却等による特別損益を加えた純損益は、前年度から 7,458 百万円悪化し、7,477 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	330	640	310	193.9	
	入院	延患者数	人	79,362	174,383	95,021	219.7
		1日当たり患者数	人	217	478	261	220.3
		新規患者数	人	5,404	13,584	8,180	251.4
		平均在院日数	日	13.7	12.0	△1.7	87.6
		診療単価	円	112,097	94,908	△17,189	84.7
	外来	延患者数	人	79,776	198,837	119,061	249.2
		1日当たり患者数	人	330	818	488	247.9
		新規患者数	人	5,440	18,007	12,567	331.0
		診療単価	円	27,239	19,996	△7,243	73.4
経常収益	入院収益	百万円	8,896	16,550	7,654	186.0	
	外来収益	百万円	2,173	3,976	1,803	183.0	
	その他医業収益	百万円	163	376	213	230.7	
	医業収益計	百万円	11,232	20,902	9,670	186.1	
	一般会計繰入金	百万円	1,167	1,760	593	150.8	
	その他収益	百万円	1,355	1,404	49	103.6	
	合計①	百万円	13,754	24,066	10,312	175.0	
経常費用	給与費	百万円	5,889	13,516	7,627	229.5	
	材料費	百万円	5,041	8,026	2,985	159.2	
	経費	百万円	1,960	5,584	3,624	284.9	
	その他医業費用	百万円	618	854	236	138.2	
	医業費用計	百万円	13,508	27,980	14,472	207.1	
	その他費用	百万円	490	249	△241	50.8	
	合計②	百万円	13,998	28,230	14,232	201.7	
経常損益③(①-②)	百万円	△245	△4,163	△3,918	-		
特別利益④	百万円	247	2,229	1,982	902.4		
特別損失⑤	百万円	21	5,543	5,522	26,395.2		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△19	△7,477	△7,458	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 令和3年度は姫路循環器病センター、令和4年度は姫路循環器病センター(4月)、はりま姫路医療センター(5月以降)の合計を記載している。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 総合的な診療機能を活かした高度専門・急性期医療の提供
- ② 幅広い疾患に対応した救急医療の充実
- ③ 関係機関と連携した医療人材育成・臨床研究

### (2) 施設・医療機器の整備

新病院開院に伴い整備した主な医療機器（令和4年5月）

- ① リニアック（約527百万円）
- ② 手術支援ロボット（約200百万円）
- ③ 心臓血管造影撮影装置（約180百万円）

## 3 今後の取組

- ① フルオープン（令和5年4月、640床→736床）に対応した円滑な病床運用の実施による患者の受入れ促進
- ② 病院機能評価受審・認定による患者の信頼向上と診療報酬獲得

**[参 考]** 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	丹波医療センター 総務部	代表 0795-88-5200	管理局長 細見 和正 (総務部長 岡田 啓一)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立丹波医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症に伴う入院病床の確保等の影響による減収はあったものの、新型コロナウイルス感染症患者受入に努めるとともに、新たに稼働した回復期リハビリテーション病棟の患者確保、救急患者の受け入れ促進等による患者数の増加、手術件数や外来化学療法件数の増加等による診療単価の向上、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金の収入等により、前年度から856百万円増加し、10,800百万円となった。
- 経常費用は、回復期リハビリテーション病棟稼働等による給与費の増加、手術件数や外来化学療法件数の増加に伴う材料費の増や、賃借料や光熱水費等の経費の増などにより、前年度から488百万円増加し、10,700百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度から367百万円改善の、100百万円の黒字となった。
- また、旧病院建物の解体撤去に係る費用を特別損失に計上したことにより、純損益は前年度から876百万円悪化し、2,190百万円の赤字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	275	320	45	116.4	
	入院	延患者数	人	78,699	93,686	14,987	119.0
		1日当たり患者数	人	216	257	41	119.0
		新規患者数	人	6,030	6,438	408	106.8
		平均在院日数	日	12.0	13.6	1.6	113.3
	診療単価	円	57,358	56,976	△382	99.3	
	外来	延患者数	人	129,854	135,741	5,887	104.5
		(医療センター分)		(114,903)	(119,656)	(4,753)	(104.1)
		1日当たり患者数	人	537	559	22	104.1
		(医療センター分)		(475)	(492)	(17)	(103.6)
新規患者数		人	17,622	19,732	2,110	112.0	
(医療センター分)		(13,927)	(15,003)	(1,076)	(107.7)		
診療単価	円	15,279	16,168	889	105.8		
(医療センター分)		(16,194)	(17,115)	(921)	(105.7)		
経常収益	入院収益	百万円	4,514	5,338	824	118.3	
	外来収益	百万円	1,984	2,195	211	110.6	
	(医療センター分)		(1,861)	(2,048)	(187)	(110.0)	
	その他医業収益	百万円	394	404	10	102.5	
	医業収益計	百万円	6,892	7,937	1,045	115.2	
	一般会計繰入金	百万円	1,147	949	△198	82.7	
	その他収益	百万円	1,906	1,914	8	100.4	
合計①	百万円	9,944	10,800	856	108.6		
経常費用	給与費	百万円	5,182	5,290	108	102.1	
	材料費	百万円	1,597	1,823	226	114.2	
	経費	百万円	2,064	2,192	128	106.2	
	その他医業費用	百万円	1,136	1,157	21	101.8	
	医業費用計	百万円	9,978	10,462	484	104.9	
	その他費用	百万円	233	239	6	102.6	
	合計②	百万円	10,212	10,700	488	104.8	
経常損益③(①-②)	百万円	△267	100	367	-		
特別利益④	百万円	139	2	△137	1.4		
特別損失⑤	百万円	1,186	2,291	1,105	193.2		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△1,314	△2,190	△876	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 回復期リハビリテーション病棟（45床）オープン（4年4月1日）
- ② 地域医療循環型人材育成プログラムの継続実施（平成20年10月～神戸大学に委託）

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 運動負荷心電図検査装置（約6百万円）の更新（5年2月）
- ② X線骨密度測定装置（約9百万円）の更新（5年3月）

## 3 今後の取組

- ① 丹波市ミルネ診療所、健診センター、訪問看護ステーションとの一体的な運営による患者の確保
- ② 消防本部との連携強化による救急患者の受入促進
- ③ 回復期リハビリテーション病棟（45床）の患者確保
- ④ 地域医療教育センターによる人材育成の推進

**[参 考]** 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	淡路医療センター 総務部	代表 0799-22-1200	管理局长 高崎 徳子 (総務部長 栗飯原 弘尚)	県政記者 クラブ

## 令和4年度 県立淡路医療センターの経営状況について

### 1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症患者受入れに伴う入院病床の確保、病床調整、手術制限等はあったが、前年度に比べ患者数や手術件数の増加により、医業収益は増加したものの、空床補償をはじめ新型コロナウイルス感染症関係補助金等の減少により、前年度から6百万円減少し、15,993百万円となった。
- (2) 経常費用は、患者数及び手術件数の増に伴う薬品費・診療材料費等の増加により材料費が多額となったため、前年度から631百万円増加し、15,903百万円となった。
- (3) 経常損益は前年度から637百万円減少したが、90百万円の黒字となった。
- (4) その結果、純損益は前年度から967百万円減少したが、87百万円の黒字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	441	441	0	100.0	
	入院	延患者数	人	114,602	121,420	6,818	105.9
		1日当たり患者数	人	314	333	19	106.1
		新規患者数	人	8,937	8,812	△125	98.6
		平均在院日数	日	11.8	12.8	1.0	108.5
		診療単価	円	77,661	77,476	△185	99.8
	外来	延患者数	人	185,460	191,236	5,776	103.1
		1日当たり患者数	人	766	787	21	102.7
		新規患者数	人	13,596	13,341	△255	98.1
		診療単価	円	16,599	17,165	566	103.4
経常収益	入院収益	百万円	8,900	9,407	507	105.7	
	外来収益	百万円	3,079	3,282	203	106.6	
	その他医業収益	百万円	189	185	△4	97.9	
	医業収益計	百万円	12,168	12,874	706	105.8	
	一般会計繰入金	百万円	1,706	1,698	△8	99.5	
	その他収益	百万円	2,125	1,421	△704	66.9	
	合計①	百万円	15,999	15,993	△6	100.0	
経常費用	給与費	百万円	7,671	7,894	223	102.9	
	材料費	百万円	4,022	4,272	250	106.2	
	経費	百万円	2,230	2,318	88	103.9	
	その他医業費用	百万円	1,058	1,129	71	106.7	
	医業費用計	百万円	14,982	15,614	632	104.2	
	その他費用	百万円	289	289	0	100.0	
	合計②	百万円	15,272	15,903	631	104.1	
経常損益③(①-②)	百万円	727	90	△637	-		
特別利益④	百万円	337	2	△335	0.6		
特別損失⑤	百万円	10	5	△5	50.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	1,054	87	△967	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① アンギオ室の診療機能充実及び不整脈治療（アブレーション治療）の効率的運用
- ② 地域連携クリニカルパスの充実
- ③ 手術支援ロボットの早期導入に向けた取組

### (2) 施設・医療機器の整備

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ① 生体情報モニタ        | (約58百万円)の整備(4年4月) |
| ② 超音波画像診断装置      | (約12百万円)の整備(5年1月) |
| ③ 据置型デジタルX線テレビ装置 | (約45百万円)の整備(5年3月) |
| ④ 注射薬自動払出装置      | (約67百万円)の整備(5年3月) |
| ⑤ 総合血液学検査システム    | (約19百万円)の整備(5年3月) |
| ⑥ 診断用X線撮影装置      | (約12百万円)の整備(5年3月) |

## 3 今後の取組

- ① 新型コロナウイルス感染症への適切な対応
- ② 手術支援ロボットの効率的運用
- ③ リニアック機器更新による早期運用開始
- ④ 手術室の効率的稼働及び適切な病床管理
- ⑤ 新規・上位の施設基準の取得（急性期充実体制加算など）
- ⑥ クリニカルパスの見直し、DPC入院期間Ⅱ以内での退院の促進
- ⑦ 地域医療連携の推進
- ⑧ 価格交渉の強化による診療材料費の節減

【参 考】 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	ひょうごこころの医療センター 総務部	代表 078-581-1013 内線 2612	管理局長 武田 雅和 (総務部長 岡本 和久)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立ひょうごこころの医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 入院収益は、救急医療病棟における特定入院料（精神科救急急性期医療入院料）の追加加算による診療単価の増加ほか、各病棟の特性（急性期、慢性期、アルコール、児童思春期等）に応じた効率的な病棟運営により、延入院患者も大幅に増加したことから、前年度から421百万円増の1,540百万円となった。また、コロナ関連補助金や一般会計繰入金を含む、経常収益についても、前年度から486百万円増の4,508百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与費や経費（光熱水費の増等）の増加により、前年度から71百万円増加し、4,338百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から415百万円改善し、170百万円のプラスとなった。

また、特別利益、特別損失を含む当期純損益は、前年度から316百万円改善し、175百万円の黒字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	254	254	0	100.0	
	入院	延患者数	人	44,323	55,273	10,950	124.7
		1日当たり患者数	人	121	151	30	124.8
		新規患者数	人	883	1,140	257	129.1
		診療単価	円	25,256	27,861	2,605	110.3
	外来	延患者数	人	50,279	49,449	△830	98.3
		1日当たり患者数	人	208	203	△5	97.6
		新規患者数	人	1,715	2,493	778	145.4
診療単価		円	6,568	6,921	353	105.4	
経常収益	入院収益	百万円	1,119	1,540	421	137.6	
	外来収益	百万円	330	342	12	103.6	
	その他医業収益	百万円	18	17	△1	94.4	
	医業収益計	百万円	1,467	1,899	432	129.4	
	一般会計繰入金	百万円	1,643	1,719	76	104.6	
	その他収益	百万円	912	890	△22	97.6	
	合計①	百万円	4,022	4,508	486	112.1	
経常費用	給与費	百万円	2,942	2,991	49	101.7	
	材料費	百万円	158	185	27	117.1	
	経費	百万円	597	634	37	106.2	
	その他医業費用	百万円	474	440	△34	92.8	
	医業費用計	百万円	4,170	4,249	79	101.9	
	その他費用	百万円	97	89	△8	91.8	
	合計②	百万円	4,267	4,338	71	101.7	
経常損益③(①-②)	百万円	△245	170	415	-		
特別利益④	百万円	106	10	△96	9.4		
特別損失⑤	百万円	2	5	3	250.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△141	175	316	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。



## **2 施設・医療機器の整備状況**

- ① ファンコイルリモコンの更新（南2病棟）（12百万円）の更新
- ② 医療用テレメータ（1台）（約4百万円）の更新

## **3 今後の取組**

- ① 地域医療機関等との連携強化による患者確保対策の促進
- ② 救急医療の更なる推進

**[参 考] 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）**

## 記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	こども病院 総務部	代表 078-945-7300 内線 24010	管理局長 野田 誠一 (総務部長 喜多 晃)	県政記者 クラブ

## 令和4年度 県立こども病院の経営状況について

## 1 経営状況

- (1) 経常収益は、救急患者の増加等により入院収益が増加したことから、前年度から309百万円増加し、14,396百万円となった。
- (2) 経常費用は、看護職員等の処遇改善手当等による給与費の増、光熱水費増加等による経費の増等により前年度から222百万円増加し、14,445百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から87百万円改善したものの、49百万円の赤字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	282	282	0	100.0	
	入院	延患者数	人	80,935	82,809	1,874	102.3
		1日当たり患者数	人	222	227	5	102.3
		新規患者数	人	6,704	6,638	△66	99.0
		平均在院日数	日	11.1	11.5	0.4	103.6
	診療単価	円	104,245	105,169	924	100.9	
	外来	延患者数	人	110,330	111,753	1,423	101.3
		1日当たり患者数	人	456	460	4	100.9
新規患者数		人	14,085	15,443	1,358	109.6	
診療単価	円	17,811	17,491	△320	98.2		
経常収益	入院収益	百万円	8,437	8,709	272	103.2	
	外来収益	百万円	1,965	1,955	△10	99.5	
	その他医業収益	百万円	132	134	2	101.5	
	医業収益計	百万円	10,535	10,798	263	102.5	
	一般会計繰入金	百万円	2,227	2,306	79	103.5	
	その他収益	百万円	1,325	1,292	△33	97.5	
	合計①	百万円	14,087	14,396	309	102.2	
経常費用	給与費	百万円	8,176	8,405	229	102.8	
	材料費	百万円	2,438	2,476	38	101.6	
	経費	百万円	2,147	2,292	145	106.8	
	その他医業費用	百万円	1,306	1,117	△189	85.5	
	医業費用計	百万円	14,067	14,291	224	101.6	
	その他費用	百万円	156	155	△1	99.4	
	合計②	百万円	14,223	14,445	222	101.6	
経常損益③(①-②)	百万円	△136	△49	87	-		
特別利益④	百万円	200	2	△198	1.0		
特別損失⑤	百万円	157	7	△150	4.5		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△93	△55	38	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① ゲノム医療センターの運営強化
- ② 新興再興感染症対策の強化

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① PICU 個室・陰圧室の改修（約 26 百万円）
- ② 生体情報モニタリングシステムの更新（約 64 百万円）

## 3 今後の取組

- ① 県下唯一の小児専門病院として、高度・先進的な小児医療の実施
- ② 小児 3 次救急患者を 24 時間体制で受入可能とする小児救命救急センターの運営
- ③ ハイリスク児及びハイリスク妊産婦の救命救急を図る周産期医療センターの運営
- ④ 難治性小児がんに対して集学的治療等を実践する小児がん医療センターの運営
- ⑤ 先天性心疾患治療における循環器内科と心臓血管外科の連携による小児心臓センターの運営
- ⑥ 軽症から重症・難治性のアレルギー疾患に対する小児アレルギー疾患センターの運営
- ⑦ 先天異常や小児がん領域のゲノム医療を推進するゲノム医療センターの運営
- ⑧ CAR-T 細胞療法（キムリア）の提供
- ⑨ 臨床研究の積極的实施

**[参 考]** 令和 4 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	がんセンター 総務部	代表 078-929-1151 内線 8180(8017)	管理局長 柏木 英士 (総務部長 正垣 雅士)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立がんセンターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、入院、外来ともに延患者数及び新規患者数が増加したことや、新型コロナウイルス感染症患者の受入れに係る病床確保料の補填等により、前年度から934百万円増加し、18,757百万円となった。
- (2) 経常費用は、医業収益の増加に伴う材料費の増加や、原油価格や物価高騰の影響による経費の増加等により、前年度から477百万円増加し、18,792百万円となった。
- (3) この結果、経常損益は、前年度から456百万円改善し、35百万円の赤字となった。
- (4) また、純損益は、令和3年度において退職給付引当金の過年度修正等を特別利益として計上していたため、前年度から259百万円改善し、30百万円の赤字となった。

区 分		単 位	令和3年度	令和4年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	377	360	△ 17	95.5	
	入院	延患者数	人	85,932	90,761	4,829	105.6
		1日当たり患者数	人	235	249	14	106.0
		新規患者数	人	6,870	7,258	388	105.6
		平均在院日数	日	11.5	11.5	0.0	100.0
		診療単価	円	75,635	75,731	96	100.1
	外来	延患者数	人	161,906	165,985	4,079	102.5
		1日当たり患者数	人	669	683	14	102.1
		新規患者数	人	7,813	8,641	828	110.6
診療単価		円	57,141	56,665	△ 476	99.2	
経常収益	入院収益	百万円	6,499	6,873	374	105.8	
	外来収益	百万円	9,251	9,405	154	101.7	
	その他医業収益	百万円	446	435	△ 11	97.5	
	医業収益計	百万円	16,197	16,714	517	103.2	
	一般会計繰入金	百万円	864	873	9	101.0	
	その他収益	百万円	763	1,170	407	153.3	
	合計①	百万円	17,823	18,757	934	105.2	
経常費用	給与費	百万円	6,849	6,832	△ 17	99.8	
	材料費	百万円	8,338	8,687	349	104.2	
	経費	百万円	2,066	2,200	134	106.5	
	その他医業費用	百万円	964	970	6	100.6	
	医業費用計	百万円	18,218	18,689	471	102.6	
	その他費用	百万円	97	102	5	105.2	
	合計②	百万円	18,315	18,792	477	102.6	
経常損益③(①-②)		百万円	△ 491	△ 35	456	—	
特別利益④		百万円	220	11	△ 209	5.0	
特別損失⑤		百万円	18	6	△ 12	33.3	
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 289	△ 30	259	—	

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① ゲノム医療の推進
  - ・がんゲノム医療拠点病院（全国で 32 機関）
  - ・遺伝子パネル検査の実施（令和 4 年度実績：145 件）
  - ・先進医療の実施
  - ・県内他院に対する遺伝診療の応援
- ② 神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法（ルタテラ療法）の開始
- ③ 頭頸部がん光免疫療法の実施
- ④ がん治療を要する新型コロナウイルス感染症患者用病床の確保
- ⑤ 外来処置待機時間縮小のための外来処置スペースの拡充
- ⑥ 集中治療室での術後患者観察の適応拡大
- ⑦ 合併症減少に向けた口腔ケアの強化
- ⑧ チーム医療の充実（摂食嚥下・疼痛管理）

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 超音波診断装置及び電子内視鏡システムの更新（約 30 百万円）（令和 5 年 2 月）

## 3 今後の取組

- ① がんゲノム医療拠点病院としての機能強化
  - ・遺伝子パネル検査の実施、検査対象患者への支援
  - ・ゲノム外来、遺伝外来（遺伝カウンセリングを含む）の充実
- ② リニアックによる高精度放射線治療（IMRT、定位照射）の促進
- ③ 都道府県がん診療連携拠点病院としての連携強化
  - ・地域医療機関への訪問、意見交換
  - ・市内がん検診実施医療機関への患者紹介の働きかけ
  - ・相談支援センターにおける治療と仕事の両立支援強化
- ④ 入退院支援センターの機能充実
- ⑤ 治験・臨床研究の推進
- ⑥ 低侵襲手術等への取り組み（ダヴィンチ、腹腔鏡、胸腔鏡）
- ⑦ 術前麻酔外来の開始
- ⑧ 紹介受診重点医療機関の承認
- ⑨ 診療科別の病床配床の見直し
- ⑩ がんセンターホームページのリニューアル
- ⑪ 新病院建築工事等の着工

**【参 考】 令和 4 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）**

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	粒子線医療センター 事務部	代表 0791-58-0100 内線 272	事務部長 天羽 由浩 (総務課長 八雲 順乗)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立粒子線医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新たに5種類のがんの粒子線治療が公的保険適用の対象となったことから、実患者数が入院・外来とも増加したため、前年度比205百万円増加の2,700百万円となった。  
(内訳 たつの：211百万円、神戸：△6百万円)
- (2) 経常費用は、県立粒子線医療センター（たつの）において粒子線治療装置改修に伴う減価償却費の増加や燃料費高騰に伴い光熱費が増加したこと等により、前年度比437百万円増加の4,148百万円となった。(内訳 たつの：389百万円、神戸：48百万円)。
- (3) 上記の理由により経常損益は、前年度より233百万円悪化し、1,449百万円の赤字となった。(内訳 たつの：△955百万円、神戸：△494百万円)。

区分		単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	50	50	0	100.0	
	入院	延患者数	人	8,426	8,722	296	103.5
		1日当たり患者数	人	23	24	1	104.3
		実患者数	人	171	207	36	121.1
		診療単価	円	69,994	75,127	5,133	107.3
	外来	延患者数	人	11,741	13,371	1,630	113.9
		1日当たり患者数	人	49	55	6	112.2
		実患者数	人	311	354	43	113.8
診療単価		円	64,387	61,619	△2,768	95.7	
経常収益	入院収益	百万円	589	655	66	111.2	
	外来収益	百万円	756	824	68	109.0	
	その他医業収益	百万円	19	7	△12	36.8	
	医業収益計	百万円	1,364	1,487	123	109.0	
	一般会計繰入金	百万円	558	537	△21	96.2	
	その他収益	百万円	573	676	103	118.0	
	合計①	百万円	2,495	2,700	205	108.2	
経常費用	給与費	百万円	925	944	19	102.1	
	材料費	百万円	70	79	9	112.9	
	経費	百万円	1,505	1,724	219	114.6	
	その他医業費用	百万円	844	1,045	201	123.8	
	医業費用計	百万円	3,345	3,792	447	113.4	
	その他費用	百万円	366	356	△10	97.3	
	合計②	百万円	3,711	4,148	437	111.8	
経常損益③(①-②)	百万円	△1,216	△1,449	△233	-		
特別利益④	百万円	145	0	△145	0.0		
特別損失⑤	百万円	147	0	△147	0.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△1,219	△1,449	△230	-		

※1 県立粒子線医療センター（たつの）と神戸陽子線センター（神戸）を合算している。

※2 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 県立粒子線医療センター、附属神戸陽子線センター、県立がんセンター、県立こども病院によるがん診療ネットワークの運用（テレビ会議システム等を活用したカンサーボードの実施。  
（令和4年度実施回数：630回）
- ② 保険適用の拡大に向けた臨床試験（先進医療B）の実施
- ③ 肝がん・膵がんに対する粒子線治療の治療成績と安全性の向上
- ④ 紹介元医療機関の新規開拓のための「講演会の開催」（令和4年度実施回数3回、82人参加）
- ⑤ 患者・一般向け「ウェビナー」の開催（令和4年度実施回数12回、56人参加）
- ⑥ オンライン診療による患者利便性の向上（令和4年度利用者135人（たつの：124人、神戸：11人）
- ⑦ 神戸陽子線における照射精度の向上（スキヤニング照射における呼吸同期機能を付加、R5.3）

## 3 今後の取組

- ① 保険適用拡大を受けた広報活動の充実
- ② 医療従事者専用サイトを活用した症例検討会の実施
- ③ 患者・一般向け「ウェビナー」の開催

**[参 考]** 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	兵庫県災害医療センター 事務部	代表 078-241-3131	事務部長 高階 正三 (総務課長 松原 良和)	県政記者 クラブ

令和4年度 兵庫県災害医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益においては、入院新規患者数は前年度を下回ったが、平均在院日数の増による延患者数の増や診療単価の上昇などで入院収益が増加した。また、前年度に引き続き、新型コロナ宿泊療養者への往診の実施により、延患者数の増により外来収益も増加したことなどで、前年度を43百万円上回る2,322百万円を確保した。
- 経常費用は、人件費や診療環境改善などによる経費の増により前年度から121百万円増加し、2,315百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度より79百万円減少し、6百万円の黒字となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	30	30	0	100.0	
	入院	延患者数	人	8,370	8,477	107	101.3
		1日当たり患者数	人	23	23	0	100.0
		新規患者数	人	1,058	1,009	△49	95.4
		平均在院日数	日	6.9	7.3	0.4	105.8
		診療単価	円	175,809	178,117	2,308	101.3
	外来	延患者数	人	553	1,047	494	189.3
		1日当たり患者数	人	2	3	1	150.0
		新規患者数	人	433	879	446	203.0
		診療単価	円	155,509	94,349	△61,160	60.7
経常収益	入院収益	百万円	1,472	1,515	43	102.9	
	外来収益	百万円	86	99	13	115.1	
	その他医業収益	百万円	10	26	16	260.0	
	医業収益計	百万円	1,568	1,639	71	104.5	
	一般会計繰入金	百万円	0(747)	0(681)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	685	625	△60	91.2	
	その他収益	百万円	26(162)	58(157)	32	223.1	
合計①	百万円	2,279(909)	2,322(838)	43	101.9		
経常費用	給与費	百万円	1,295(37)	1,340(33)	45	103.5	
	材料費	百万円	479	511	32	106.7	
	経費	百万円	330(687)	354(626)	24	107.3	
	その他医業費用	百万円	9(147)	18(142)	9	200.0	
	医業費用計	百万円	2,113(871)	2,223(802)	110	105.2	
	その他費用	百万円	81(38)	93(37)	12	114.8	
	合計②	百万円	2,194(909)	2,315(838)	121	105.5	
経常損益③(①-②)	百万円	85(0)	6(0)	△79	—		
特別利益④	百万円	0	0	0	—		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	85(0)	6(0)	△79	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算(指定管理料、派遣職員給与費等)を( )書きで記載している。



## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

- ① 高度救命救急センターとして、医療の質及び救命率の向上を図るため、新型コロナ対策を勘案したハイブリッドER（高度救命初療室）診療やECPR（体外循環式心肺蘇生法）と一連の体温管理療法プロトコルを確立し、実践・運用を行っている。
- ② 神戸市立中央市民病院等の近隣救命センターが新型コロナ患者診療に特化せざるを得ない状況に陥った際、平時ならこれらの施設（阪神・播磨地区を含む）に搬送されていた新型コロナウイルス感染症以外の重症内因救急患者を積極的に受け入れた。  
また、神戸市の要請により、前年度に引き続き、神戸市内の宿泊療養施設の入所者に対する訪問診療を実施した。
- ③ 神戸市を始めとする県内消防機関及び2次救急医療機関と連携を強化し、引き続き重症患者の受入れ促進を図るとともに、新型コロナウイルスの影響による搬送困難例にも対応した。
- ④ MSW（社会福祉士）の早期積極的介入やひょうごこころの医療センター等との診療協力による適切なベッドコントロールにより在院日数の適正化を図り、円滑な転院を進めた。
- ⑤ 新たに病院救命士の採用を開始するとともに、専門看護師や医師事務補助者等の活用を図ることにより、タスク・シフトを促進している。

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 生体情報モニタの更新（24百万円）（令和5年3月）
- ② 放射線画像管理システムの更新（15百万円）（令和5年3月）
- ③ 空調自動制御設備更新工事（6百万円）（令和5年3月）

## 3 今後の取組

- ① ハイブリッドER診療、ECPRと一連の体温管理療法プロトコル適応症例の積み重ねを行い、これら特徴的な臨床現場を、研修医師など院内外のメディカルスタッフの研鑽の場として提供する。
- ② 県内の各消防本部や2次・3次医療施設と連携をとることで患者受入れ・後送を円滑に行い、コロナ禍が明けても同様に地域医療における当センターの使命である外因を中心とした重症症例の集約施設としての機能を消防・近隣医療機関と連携しつつ、維持向上させる。
- ③ 開院から20年を経過し、進む施設や医療機器の老朽化に対応するため、医療機器の適切な更新を図るとともに、施設や設備についても必要な点検、修理を実施し、機能維持に努める。
- ④ 現在のBCPは地震想定部分が多いことから、感染症アウトブレイクやパンデミック、風水害にも適用できるようオールハザードを基本として改訂を図る。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、救急医、特定看護師、DMAT隊員や救急救命士の教育研修会（OFF-JT）を実施し、引き続き県内外の救急災害医療従事者の人材育成を図る。

**【参 考】 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）**

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	リハビリテーション中央病院 総務部	代表 078-927-2727 内線 2226	管理局長 隅岡 繁宏 (管理部長 中西 潤)	県政記者 クラブ

## 令和4年度 県立リハビリテーション中央病院の経営状況について

### 1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症に伴う受診控えからの回復等による患者数の増加、手術件数の増加、リハビリ実施単位数の増等の取り組みや新型コロナウイルス感染症対策関連補助金の収入等により、前年度から387百万円増加し、5,374百万円となった。
- 経常費用は、手術件数増加に伴う材料費の増、物価高騰に伴う水道光熱費などの経費の増や高額医療機器の更新等により、前年度に比べ356百万円増加し、5,287百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度よりも30百万円増加し、87百万円となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	330	330	0	100.0	
	入院	延患者数	人	82,138	87,288	5,150	106.3
		1日当たり患者数	人	225	239	14	106.2
		新規患者数	人	1,352	1,793	441	132.6
		平均在院日数	日	59.7	67.5	7.8	113.1
	診療単価	円	37,203	39,935	2,732	107.3	
	外来	延患者数	人	51,448	56,856	5,408	110.5
		1日当たり患者数	人	213	234	21	109.9
		新規患者数	人	2,649	2,622	△27	99.0
		診療単価	円	18,737	17,215	△1,522	91.9
経常収益	入院収益	百万円	3,056	3,486	430	114.1	
	外来収益	百万円	964	979	15	101.6	
	その他医業収益	百万円	63	69	6	109.5	
	医業収益計	百万円	4,083	4,534	451	111.0	
	一般会計繰入金	百万円	0(306)	0(322)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	281	288	7	102.5	
	その他収益	百万円	623(454)	552(394)	△71	88.6	
	合計①	百万円	4,987(760)	5,374(716)	387	107.8	
経常費用	給与費	百万円	2,660(21)	2,780(21)	120	104.5	
	材料費	百万円	1,061	1,181	120	111.3	
	経費	百万円	1,210(282)	1,326(300)	116	109.6	
	その他医業費用	百万円	0(431)	0(370)	0	—	
	医業費用計	百万円	4,931(734)	5,287(691)	356	107.2	
	その他費用	百万円	0(25)	0(25)	0	—	
	合計②	百万円	4,931(759)	5,287(716)	356	107.2	
経常損益③(①-②)	百万円	57(1)	87(0)	30	—		
特別利益④	百万円	0(1)	0(0)	0	—		
特別損失⑤	百万円	0(2)	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	57(0)	87(0)	30	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

- ① 「子どものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター」における脳性麻痺等肢体不自由児、睡眠障害等に対する包括的な対応
- ② ロボットリハビリテーションの臨床応用
- ③ 「スポーツ医学診療センター」におけるスポーツ障害等に対する包括的な対応
- ④ 新型コロナウイルス感染症陰性化後のリハビリテーションの実施

### (2) 施設・医療機器の整備

- ① 外科用X線装置（約16百万円）の整備（5年3月）
- ② 一般撮影装置（約13百万円）の整備（5年3月）
- ③ 自動採血管準備装置（約10百万円）の整備（5年3月）

## 3 今後の取組

- ① リハビリテーション入院機能の充実
- ② 地域医療連携の強化

[参 考] 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/19 (火)	リハビリテーション西播磨病院 業務部	代表 0791-58-1050 内線 204	管理局長 熊澤 聡 (業務部長 田中 哲也)	県政記者 クラブ

令和4年度 県立リハビリテーション西播磨病院の経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で医療従事者及び入院患者の感染が急激に増え、新規入院受入及びリハ訓練を一時的に中止したこと等による業務量実績減により前年度比較で81百万円減少し、1,716百万円となった。
- 経常費用は、医師、セラピスト、看護師の中途退職による欠員等による給与費及び経費減等により前年度比較で30百万円減少し、1,774百万円となった。
- 経常損益は、前年度比較で51百万円減少し、マイナス58百万円となった。

区分	単位	令和3年度	令和4年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	100	100	0	100.0	
	入院	延患者数	人	32,029	30,683	△1,346	95.8
		1日当たり患者数	人	88	84	△4	95.5
		新規患者数	人	473	473	0	100.0
		平均在院日数	日	65.8	63.1	△2.7	95.9
		診療単価	円	39,694	39,197	△497	98.7
	外来	延患者数	人	9,690	9,324	△366	96.2
		1日当たり患者数	人	40	38	△2	95.0
		新規患者数	人	1,224	1,227	3	100.2
		診療単価	円	35,440	35,187	△253	99.3
経常収益	入院収益	百万円	1,271	1,203	△68	94.6	
	外来収益	百万円	343	328	△15	95.6	
	その他医業収益	百万円	24	32	8	133.3	
	医業収益計	百万円	1,639	1,563	△76	95.4	
	一般会計繰入金	百万円	0(138)	0(133)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	124	119	△5	96.0	
	その他収益	百万円	34(236)	33(213)	△1	97.1	
	合計①	百万円	1,797(374)	1,716(346)	△81	95.5	
経常費用	給与費	百万円	1,030(11)	1,021(11)	△9	99.1	
	材料費	百万円	315	305	△10	96.8	
	経費	百万円	459(125)	448(120)	△11	97.6	
	その他医業費用	百万円	0(225)	0(202)	0	—	
	医業費用計	百万円	1,804(361)	1,774(333)	△30	98.3	
	その他費用	百万円	0(13)	0(13)	0	—	
	合計②	百万円	1,804(374)	1,774(346)	△30	98.3	
経常損益③(①-②)	百万円	△7(0)	△58(0)	△51	—		
特別利益④	百万円	0	0	0	—		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△7(0)	△58(0)	△51	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算(指定管理料、派遣職員給与費等)を( )書きで記載している。

## 2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

### (1) 診療機能の充実

#### ① 摂食嚥下支援センターの運営・強化

脳血管障害患者の摂食・嚥下機能向上にかかる治療実績を生かし、専門外来及び短期入院により「摂食嚥下障害」の早期発見、誤嚥性肺炎・失速の予防及び安全に食べるための専門的な評価・指導を実勢するか本格稼働により「摂食・嚥下障害」の早期発見、誤嚥性肺炎・窒息の予防及び安全に食べるための専門的な評価・指導を実施した。また、利用者増に向けホームページ、脳血管障害患者・家族向けセミナー等の情報発信に取り組むとともに、地元医師会、かかりつけ医及び地域の関係機関に直接案内する機会を設ける等PRを図った。

#### ② 軽度認知障害（MC I）への取組強化

当院認知症疾患医療センターにおいて鑑別診断により軽度認知障害（MC I）と診断された人の臨床データのデータベース化、症状に応じたケアのあり方の検討（事例検討会）等を実施した。また、市町等地域関係者が連携する支援体制に向けたモデル事業にも取組み、健康な高齢者がMC Iへ、MC I高齢者が認知症へ進行することの予防及び状態に応じた必要な治療・支援に取り組んだ。

### (2) 施設・医療機器の整備

なし

## 3 今後の取組

- ・患者受入体制の整備強化等
- ・摂食嚥下支援センターの取組強化
- ・神経難病リハビリテーションセンターの取組強化
- ・軽度認知障害（MC I）支援の強化
- ・園芸療法事業の拡充

**[参 考]** 令和4年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）